

# 個別演習の目次

## 経済学科

天谷 ……	1	大野 ……	3	岡田 ……	4	沖 ……	6
加藤 ……	7	佐藤 ……	8	長山 ……	9	久松 ……	10
藤原 ……	11	星野 ……	12	宮崎 ……	14	持田 ……	16
横山 ……	17	ラナデ ……	18				

## 経営システム学科

青木 ……	19	井上(善) ……	20	繁本 ……	21	向 ……	23
趙 ……	24	張 ……	25	藤村 ……	26	古川 ……	28
松岡 ……	29	細見 ……	30	朴(恩) ……	31	朴(鏡) ……	32
宮脇 ……	33	安井 ……	34	渡邊 ……	35		

## 地域社会システム学科

緒方 ……	36	川端 ……	37	園部 ……	40	高橋(明) ……	41
西成 ……	42	原 ……	44	宮島 ……	46	山本 ……	47

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314123) 個別演習 (天谷) Special Seminar ミクロ経済学・ゲーム理論とその応用	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用ミクロ経済学	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学およびゲーム理論の手法を習得し、それを用いて現実の経済・社会問題を分析できる力をつけることを目指します。 人間の行動原理と、人々の間の相互作用や駆け引きについて考察するのが「ミクロ経済学・ゲーム理論」という学問です。従って、ミクロ・ゲームの考え方を身につけることで、市場取引や経済政策といった標準的な経済学の問題はもとより、経営戦略・組織・交渉・制度設計・外交戦略など、様々な社会の事象への理解を深めることができます。 ミクロ・ゲームの思考法を習得することで、複雑な社会の問題の背後にある本質を自分の頭で紐解いて理解する快感を得るとともに、自分が社会で生きて行く上での大事な指針を手にすることができるでしょう。 演習では、参加者の希望も踏まえて具体的なテーマを選択し、テキスト講読、問題演習、教員や学生が提起する問題のディスカッション、グループや個人による研究を行います。これにより、知識の習得に加えて、研究のスキルやセンスを磨いて行きます。			
<b>授業の目的</b> 経済主体が相互依存関係下でいかなる意思決定を行うか、また市場においていかなる資源配分が実現されるか、ミクロ経済学とゲーム理論の観点から理解するとともに、自ら現実の経済問題を発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いて分析できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミクロ経済学とゲーム理論の基礎概念を理解し、それらをどのような経済問題の分析に用いることができるのか説明できる。</li> <li>・ 現実の経済問題を自らの力で発見し、ミクロ経済学とゲーム理論の手法を用いた簡単なモデルを作って分析し、説明することができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別演習 出席、ゼミでの報告・発言、課題レポート、学年末に提出の卒業論文（最終稿だけでなく、どのようなプロセスで作成したかも含む）を総合的に評価する。</li> <li>・ 卒業論文 経済理論の手法を用いて、自分の設定したテーマについて分析を行い、論文にする。単位認定に当たっては、独創的な研究がなされているかを重視する。既存の文献等を調べてまとめただけのものは単位認定しない。</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考基準  同一教員の演習から継続する者については、ゼミ活動に貢献し、卒業論文作成に積極的に取り組む意欲が認められれば受け入れる。 その他の者については、以下の観点から選考を行う。            1. ミクロ経済学の基礎を習得しているか（もしくはこれからしっかり学習する意思があるか）            2. 経済学・現実の経済問題に強い興味を持っているか            3. 論理的・数学的に物事をじっくり考える意欲及び能力があるか            4. 受身の姿勢ではなく、主体性を持ってゼミでの勉学に取り組む意欲があるか            5. 報告準備を責任を持ってする、積極的に発言するなど、「楽しく緊張感のあるゼミ」づくりに貢献できるか            6. 研究したいテーマが教員の指導能力に適合するか             ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法             年間の演習のうち、おおよそ5割を講義・テキストの講読および問題演習、2割を研究方法のトレーニングおよび学生による研究発表とする。残り3割は履修者と相談の上、上級の文献講読、プロジェクト研究等にあてる。            発表担当でない回でも、テキストを精読して予習をし、自分の考え、疑問点などを整理したうえで出席することが求められる。また、上記のゼミ論文、卒業論文以外にも、学習内容を確認するためのレポートを適宜課することがある。            ゼミは、グループでの勉強の場である。自分自身が学習意欲を持つのはもちろんのこと、他のメンバーの勉学にも協力・貢献する姿勢が求められる。         </li> </ul>			

教科書・参考書等

参加者と相談の上決定する。以下は候補のいくつかである。

1. 丸山雅祥『経営の経済学』（第3版）有斐閣、2017年、3000円＋税
2. 長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学・基礎と応用』（第2版）日本評論社、2013年、3000円＋税
3. 坂井豊貴『マーケットデザイン入門』ミネルヴァ書房、2010年、3000円＋税
4. ギルボア『意思決定理論入門』NTT出版、2012年、2800円＋税

オフィスアワー 月曜 4 時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

就職活動等でやむを得ず欠席する場合は、授業の進行や他の参加者の学習に支障をきたさぬよう、十分配慮することが求められる。

ナンバリングコード B4STT-bcdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 314105) 個別演習 (大野) Special Seminar 統計データ分析	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 大野 拓行	関連授業科目	情報リテラシー、統計学、計量経済学、マクロ経済学、情報処理	
	履修推奨科目	経済統計	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
授業の概要 演習で学んできた知識をもとに、統計データ分析による卒業論文を作成します。			
授業の目的 卒業論文の作成を通じて、統計データを用いたレポートが作成できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的分析手法を修得する。</li> <li>統計分析を用いたレポートを作成できるようになる。</li> <li>論理的な文章が書けるようになる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>個別演習 個別演習への参加態度と卒業論文への取組み姿勢</li> <li>卒業論文 内容により単位認定を行なうが、統計データ分析が含まれていることは最低限の要件である。</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 演習において、卒業論文を作成するために必要な問題意識の糸口が見いだせているかどうかで判断したい。</li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 前半はExcelVBAの修得。 後半は個別指導の予定である。</li> </ul>			
教科書・参考書等 特に利用しない。			
オフィスアワー 月曜日12:00～13:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席3回以上の者は単位を出さない。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314121) 個別演習 (岡田) Special Seminar 経済政策の実証研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	経済政策	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> アクティブラーニングのグループ討論形式を用いて、経済政策に関わる文献の輪読・討論・研究成果（卒業論文）の作成を行なう。前期は、春休みの課題レポート（卒論草稿6000字）を基に、ゼミ生による発表と討論を行なうほか、政策研究に関する専門的な文献を輪読し討論を行なう。後期は、夏休みの課題（20000字まで発展させた卒論草稿）を基に、発表と討論及び添削指導を行なうほか、専門性を高めた政策研究に関する文献を輪読し討論を行なう。なお、正規の演習時間外（夏休み）に、研修旅行を行なう。			
<b>授業の目的</b> 経済政策に関わるさまざまなトピックを深く理解したうえで、自らの見解を表明できるようにする。財政政策、金融政策、労働・社会政策、環境政策、対外経済政策などの諸政策について、学生諸君が、その歴史と現状の把握、あるいは海外の諸制度との比較をしたうえで、学習の成果として20000字の卒業論文（学位論文）にまとめられるようにする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策に関わる諸制度の現状について説明できる。 2. 経済政策に関わる諸制度の歴史的な発展とその変遷について説明できる。 3. 経済政策に関わる諸制度について、日本と海外の事例を比較し説明できる。 4. 経済政策に関わる諸制度の問題点を明らかにし、解決策を提案できる。 5. 経済政策に関わる卒業論文（学位論文）を執筆できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習単位認定方法  報告担当時の報告内容（40点）、出席・討論参加状況（30点）、卒業論文（準備論文を含む）（30点）の100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。評価にはルーブリック評価表を用いる。なお、無断欠席をしたものは不可とする。  ・卒業論文の作成要領と単位認定方針  20000字以上の論文でなければならない。作成要領の詳細は個別演習の中で指示する。単位認定にあたっては、自らの新しい見解・論点（独創性）が盛り込まれていることを要件とする。必ず、卒業論文指導を受ける事。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準  演習（岡田）の修了者： 演習の成績による。 他の演習の修了者： 自由科目（自学科と他学科）を15科目（30単位）以上、既に修得している事を前提とし、面接のうえ可否を決定する。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法  アクティブラーニング（能動的学修）によるグループ討論を基本とする。  第1回～第11回 SGCIME編『現代経済の解説（第3版）』の輪読・討論 第12回～第15回 ゼミ生による卒論草稿（6000字）の中間発表と討論 第16回～第21回 後期テキストの輪読・討論 第22回～第29回 夏休みの課題（20000字の卒論草稿）の発表と討論及び添削指導 第30回 卒業論文発表会  テキストの輪読・討論に当たっては、各回に報告担当者を決める。			

事前準備として、報告担当者は、テキストの内容に即した「レジュメ」を作成したうえで、参加者の質問に答えられるよう下調べを行ない、演習に臨まなければならない。他の参加者は、テキストの該当範囲を熟読し、分からなかった単語・単純な疑問と、討論に値する問題点・論点のそれぞれを「討論カード」に整理し、ゼミ前日までに提出しなければならない。

当日は、レジュメ（報告者）論点と討論カード論点に基づいて、3～5人の小グループで討論する。司会と書記を交互に担当すること。討論終了後、書記が、ゼミ全体に向けて発表を行なう。指導教員による助言と、報告担当者の総括コメントでゼミを締めくくる。

#### 教科書・参考書等

前期：SGCIME編『現代経済の解説（第3版）』御茶の水書房，2017年，2500円。

後期：既刊の良書を選択する。

テキストは、ゼミ全体で共同購入するので、生協や一般書店等で購入してはならない。

これ以外に、通年で必要となる経済辞典として：

金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版。

を指定する。生協や一般書店等で購入して、必ず演習時に持参すること。

オフィスアワー 火曜日IV時限

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的にゼミに関わり合い、真摯に学ぶ姿勢が求められる。

個別演習規定時間外にも、個別に卒論指導を行なう。日程調整を行なうので、呼び出しには柔軟に応じる事。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314111) 個別演習 (沖) Special Seminar 経済学の歴史	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学 I・II	
	履修推奨科目	政治経済学 I・II	
学習時間 演習120分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 3年次の演習を踏まえて、経済思想分野の卒業論文を書くための準備作業を行います。前半では、アダム・スミスの『道徳感情論』を輪読します。後半では、各々の卒業論文のテーマに即した個別発表を行います。			
<b>授業の目的</b> 古典的な著作を読み解くことを通じて、経済社会の本質や構造に対する高度な理解力を養います。また、学術論文を執筆するための基本的スキルを身につけます。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 学術的著作のような平易ではないテキストを正確に理解することができる。 2. 他人の意見を批判的に吟味することができる。 3. スミスの思想の特徴を説明することができる。 4. 論理的な文章を学術論文の形式に則って書くことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>個別演習:</b> 出席状況、報告内容、議論への参加の積極性などにより総合的に判断します。  <b>卒業論文:</b> 認定の基準は、展開が論理的であるか、先行研究への言及があるか、学術論文としての体裁が整っているか、などです。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>選考基準:</b> 3年次の演習の取り組み方によって判断します。  <b>授業計画:</b> 前半では、アダム・スミスの『道徳感情論』を輪読し、3年次演習で読んだ『国富論』と併せて、スミス思想の全体像を掴みます。後半は、卒論作成の準備を進めていきます。  <b>自学自習:</b> 報告担当者はレジュメを作成するなど、報告の準備をします。それ以外の参加者は文献を精読し、疑問点や論点を用意します。			
<b>教科書・参考書等</b> アダム・スミス『道徳感情論』(高哲男訳、講談社学術文庫、2013年)			
<b>オフィスアワー</b> 初回時に指定します。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文は大学で学んだことの集大成です。執筆は大変ですが、がんばりましょう。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314122) 個別演習 (加藤) Special Seminar 高齢社会と社会保障	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 加藤 美穂子	関連授業科目	演習、福祉経済論Ⅰ・Ⅱ、社会政策、経済政策	
	履修推奨科目	演習、福祉経済論Ⅰ・Ⅱ、社会政策、経済政策、財政学、地方財政論	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> この個別演習では、演習Ⅰで学習した内容を基盤としながら、日本の福祉国家システムの現状や課題について、より掘り下げて研究・分析を行う。 授業はゼミ生の報告とディスカッションを中心としながら進める。			
<b>授業の目的</b> この授業では、日本の福祉国家システムの特徴や課題について、実証的に分析・検討していきます。3年次の演習Ⅰで学習したことを基盤としながら、より専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめる力を養います。加えて、報告と議論を通じて、他者の発言・意見を理解する力、報告内容や自分の意見を他者に的確に伝える力、コミュニケーション能力の向上も目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 日本の福祉国家システムの特徴を理解し、説明することができる。 (2) 日本の経済社会の構造変化が、現在の日本の社会保障システムに与える再編圧力を説明できる。 (3) 専門的な文献や資料を読解し、論文としてまとめることができる。 (4) 専門的な文献や資料を読解し、その内容を的確に他者に伝えることができる。 (5) 他者の報告や発言・意見を理解し、自分の意見を論理的に述べるができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> (1) 受講態度、報告・発言内容、卒業論文の内容によって評価する。 (2) 卒業論文は、2万字以上とする。設定したテーマをもとに、各自、参考文献や資料、統計データを収集し、分析・考察を行って論文にまとめること。 (3) 無断欠席に関しては、単位を認定しない可能性がある。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス、卒業論文の概要の報告(テーマ、研究目的、目次案、参考文献リストなど) 第2回 卒業論文の概要の報告 第3-12回 卒業論文の報告 ・ 主要な参考文献の内容 ・ 関連する制度、歴史的変遷 ・ 基礎的な統計データの整理・検討 ・ 分析の手法、進捗状況 など  第13-15回 卒業論文の報告 ・ 研究の進捗状況 ・ 夏休みの研究計画  第16-17回 夏休み中の進捗状況の報告 第18-28回 卒業論文の進捗状況の報告 第29-30回 卒論報告会  ・ 報告の際には、配布資料を作成し、ゼミの参加者全員に配布すること。 ・ 他のゼミ生の報告をきちんと聞き、互いの知識と知見を深めるために、質疑を積極的に行うこと。 ・ 夏休み期間中に、中間報告会を開催する。			
<b>【個別演習選考基準】</b> ・ 演習の参加態度・成績、卒業論文への意欲によって判断する。 ・ 他の演習の修了者については、本演習の選択理由、卒業論文のテーマ、意欲、成績と、面接によって判断する。 なお、卒業論文のテーマが研究題目と関わりのない場合には、履修を断ることがある。			
<b>教科書・参考書等</b> テキスト・参考書については、各自の卒業論文の内容に即しながら指導する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日12:00-13:00			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文の作成は、堅実・着実に進めるように。			



ナンバリングコード B4ECN-cabE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314117) 個別演習 (佐藤) Special Seminar 社会政策・労働問題の研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目		
	履修推奨科目	社会政策A・B	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 社会政策を研究するということは、要するに、私たち自身の生き方を考えるということだ。働きかた、家族のありかた、老いかた、およそ人が生きていくうえで否応なく直面する生活上の諸問題に関わるさまざまな事柄について現状を把握し、問題点を見つけ、あるべき対処について考察するということである。社会問題への感受性を高め、そして自己の生き方を省察し、見つめ直すきっかけとなるであろう。			
<b>授業の目的</b> 自分の興味関心に添ったテーマについて、資料を収集・整理・分析し、説得力のあるプレゼンテーションを経ながら、独創性豊かな卒業論文を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 卒論テーマの設定をつうじて課題設定能力を身につけることができる。 2. 卒論の説得的な論述をつうじて問題解決能力を身につけることができる。 3. ゼミでの発表・討論をつうじてコミュニケーション能力を身につけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> ゼミにおける発表・討論など日頃の研究姿勢に基づき総合的に評価する。  <b>【卒業論文】</b> 各自のテーマに関して、既存の研究水準を適切に摂取・サーベイし、独自の視点から整理統合したものでなければならない。ワープロ使用のこと。A4版上質紙(40字/行×38行/頁)20枚以上を標準とする。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【個別演習選考基準】</b> 研究題目に対する興味関心を持続させ、それを自らのテーマの設定によって一層深化させ、そして論文にまとめる意志のある人。したがって、研究題目に対する興味関心を喪失した人、あるいは自己のテーマを設定できない人は、履修をお断りすることがある。  <b>【授業の進め方】</b> 各自のテーマについて報告・討論を繰り返しながら、卒業論文を完成させる。			
<b>教科書・参考書等</b> 使用しない。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜3時間目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> どのテーマにもいろんな見方・考え方があっていいということ、それらの間の相違点と共通点を適切に理解したうえで、自分なりの考え方をどのように展開していけばよいのかということが大事な点です。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Lx4 授業科目名 (時間割コード: 314119) 個別演習(長山) Special Seminar 規範理論[Normative Theory]	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 4	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、規範理論に関する研究を指導する。 タバコ会社が公的医療保険に負担を掛けていると非難された。タバコ会社は反論した。確かに、タバコは肺癌を引き起こし、公的医療保険の給付を増大させている。しかし、タバコは肺癌を引き起こし、寿命を縮めるため、公的年金の給付を減少させている。そのため、社会保険全体では負担を掛けていない。あなたはタバコ会社の主張を支持しますか。			
<b>授業の目的</b> 功利主義、義務論、徳倫理学の考え方を理解する（DPの「知識・理解」に対応）と共に、それらの理論が抱える課題を探究できるようになる（DPの「問題解決・課題探究能力に対応」）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 功利主義の長所と短所を説明できる。 (2) 義務論の長所と短所を説明できる。 (3) 徳倫理学の長所と短所を説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 報告と討議の内容によって評価する。報告と討議では論理性が重視される。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【選考基準】</b> 演習の成績によって選考する。評価がB以上なら無条件で受け入れる。			
<b>【授業方法】</b> 教科書を輪読する。報告と討議が授業の中心である。			
<b>【授業計画】</b> 受講者の希望に応じて教科書を選び、輪読する。 また、卒業論文の指導も行う。			
<b>【自学自習】</b> 輪読する箇所は精読しておかなければならない。			
<b>【卒業論文作成要領と卒業論文単位認定方針】</b> 原則として2万字以上(図表を含む)。論文の内容によって評価する。論文では論理性だけでなく独自性も重視される。			
<b>教科書・参考書等</b> <b>【教科書】未定</b>			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日 3時限目。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> <b>【2019年度の卒業論文作成要領と卒業論文単位認定方針】</b> 原則として2万字以上(図表を含む)。論文の内容によって評価する。論文では論理性だけでなく独自性も重視される。			

ナンバリングコード B4STT-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 314107) 個別演習 (久松) Special Seminar 計量経済分析の方法と応用	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学	
	履修推奨科目	計量経済学 I, 計量経済学 II	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 前期は演習で学習した内容をもとに、各自のテーマにしたがって情報・材料収集とデータの図表化等の作業や統計分析を行う。後期は卒論作成の進捗状況や問題点を報告し、情報・材料の整理の仕方やデータ分析等について指導する。			
<b>授業の目的</b> 統計分析, 計量経済分析の方法を身につけ, 仮説の現実妥当性を検証できるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文を完成させる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>個別演習</b> 出席状況, 受講態度, 卒論研究への取り組み方を見て判断する。  <b>卒業論文</b> 卒論のボリュームの目安は図表含めてA4サイズで30枚以上。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>選考基準</b> 演習への取り組み方を見て判断する。  <b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 主題文(仮のテーマ、仮の主題文、キーワード一覧)を作成し、材料が集まったら構成表(章の構成と材料との関連をまとめた表)を作成する。主題文の作成は演習で行う場合がある。毎週、卒論作成の進捗状況を報告し指示を与え改訂して卒論を完成させる。			
<b>教科書・参考書等</b> 開講時に指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 火曜日 4限目			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 無断欠席をしないこと。			

ナンバリングコード B4ECN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314120) 個別演習 (藤原) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	演習 (藤原)	
	履修推奨科目	演習 (藤原)	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 卒業論文の書き方を学びながら、卒業論文を作成する。そして卒業論文を執筆する過程で調べた内容を授業中にローテーションで発表する。その他の学生はそれに対して意見を言い、発表者はそれを踏まえて卒業論文をさらに発展させていく。卒業論文のテーマは経済に関係したことから自由である。また前期は、ゼミ生が希望すれば、大学生による高校生向けの授業の準備も並行して行う予定である。			
<b>授業の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文を執筆する。</li> <li>他人の意見に対して自分の意見を述べる。</li> <li>高校生に経済を教えることを通して、大学生自身の経済学に対する理解を再確認する。</li> </ul>			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>論文作成能力を身に付けることができる。</li> <li>他人の意見に対して自分の意見を述べるができる。</li> <li>他人に教える力を身に付けることができる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度個別演習単位認定方法</li> </ul> 出席状況・受講態度・卒業論文への取り組み姿勢などを総合的に評価する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度卒業論文の作成要領と単位認定方針</li> </ul> テーマは経済に関係することから自由である。論文は20,000字以上を原則とする。			
出席状況、授業への取り組みを総合的に評価する。授業を無断欠席した場合は、単位を認めない可能性がある。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度個別演習選考基準</li> </ul> 演習 (藤原) 修得者は、演習で学んだ内容を糧にして、卒業論文を書く意欲がある学生を受け入れる。それ以外の学生は、面接や成績によって総合的に判断する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法</li> </ul> 前期は、各自の卒業論文のテーマを探す。そしてテーマが決まった人から資料を調べて発表する。後期は卒業論文の途中経過をローテーションで発表する。			
上と並行して、ゼミ生が望めば高校生向けの授業の準備をする。			
ゼミ生が望めば、1月末にゼミ3年生を相手に卒業論文発表会を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 卒業論文の書き方に関する本を適宜紹介する。			
オフィスアワー 最初の授業で紹介する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> できれば3年次で学んだ内容に関連したテーマを卒業論文のテーマとして選んでほしい。			

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード:314112) 個別演習(星野) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 星野 良明	関連授業科目	経済数学入門, 経済と数学, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II, 応用ミクロ経済学, 数理経済学	
	履修推奨科目	経済数学入門, ミクロ経済学I, ミクロ経済学II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
<b>授業の概要</b> ミクロ経済学的なアプローチを含む卒業論文を目指して, 研究報告と全体討論を行う。前期では春休みの課題レポートに基づいて, テーマ決定のための発表と討論を行うとともに, 論文の書き方に関連するグループワークを行う。前期末までにテーマを絞り込み, 全体構成案と基本文献リストを作成する。夏休みには先行研究の確認のために5000字程度のレポートに取り組み, 9月末(予定)に開くゼミで報告する。後期では各自の研究報告と全員による討論を行い, 12月後半を目途に卒業論文の初稿を完成させる。2月中下旬(予定)にはゼミ3年生も招いて全員で卒論報告会を開く。			
<b>授業の目的</b> 1. ミクロ経済学の概念と分析手法を習得する。 2. 経済現象や経済問題を経済学的に分析する能力を身につける。 3. コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につける。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 自ら注目する経済現象や経済問題について, その説明や解決に関わるミクロ経済学の知識と理解を得ることができる。 2. 自ら課題を設定した経済現象や経済問題について, ミクロ経済学の観点から説明または解決することができる。 3. わかりやすい報告資料の作成と発表を行うことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習: 参加態度, 発表内容, 提出課題を総合評価して認定します。無断欠席は厳禁です。場合によっては単位を認定しません。 ・卒業論文: 字数は原則として2万字以上とします。作成要領の詳細は個別演習の中で説明します。単位認定はテーマに関わる先行研究や理論を踏まえているか, 展開は論理的か, 論文としての形式が整っているかなどの観点から判断します。なお1年間を通じた作成プロセスにおいては途中報告を行い, 教員の指導を受けること。指導を受けずに提出された卒業論文は単位を認定しません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
・選考基準: 演習での参加態度, 報告内容などを総合的に評価します。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 <b>【授業の方法】</b> 個人報告, グループワーク, 全員討論を組み合わせて行う。 <b>【授業計画】</b> 1. ガイダンス (第1回) 2. テーマ絞り込みと文献探索の報告・討論, 論文の書き方の学習 (第2回～第13回) 3. テーマ, 全体構成案, 基本文献リストの発表 (第15回) 4. 中間報告会 (9月) 5. 研究報告と全員討論, 個別添削指導 (第16回～第28回) 6. 卒業論文の最終点検 (第29回) 7. 卒業論文要旨の発表と点検 (第30回) 8. 卒論報告会 (2月) <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 1. 不測の事態による卒業延期を避けるために, 卒業論文の作成は計画的に進める。 2. 参考文献の探索は根気強く継続的に行う。 4, 8. パワーポイントのスライドファイルを用意する。 5. 全体構成案に基づいて書けるところから書き進めていく。冬休みまでに一通り仕上げて指導教員から添削指導を受ける。			

教科書・参考書等

【教科書】指定しません。

【参考書】論文の書き方に関するものも含めて適宜紹介する。

オフィスアワー 木曜日4時限目（予定）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・卒業論文は通常の講義の定期試験やレポート課題のように「出してそれで終わり」というものではなく、報告と改訂を繰り返して完成，提出に至るものである。
- ・卒業アルバムは2年間のゼミ活動のまとめとして全員協力で作成する。

ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 314125) 個別演習 (宮崎) Special Seminar 論文作成の技法	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、 統計学、計量経済学	
	履修推奨科目	統計学、計量経済学	
学習時間 演習90分×30回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 毎回の演習では、講義担当者が論文作成のために必要な知識や技術について簡単に講義を行い、学生はその後の演習を通してそれらの知識や技術を習得します。論文作成のための基本的なことからデータ等の処理の仕方まで学ぶ予定です。			
<b>授業の目的</b> ・他人に文書の形でわかりやすく物事を伝えるという能力は今後の人生においても非常に重要となります。この演習では、研究の進め方、文章の書き方、効果的な発表の仕方を習得することによって、その能力を習得することを目指します (DPの「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」)。 ・IT技術の進歩によって、今、ありとあらゆることに関するデータが多数存在します。それらのデータも適当な加工・処理をし適切な方法で分析しなければ、宝の持ち腐れとなります。この講義では、データ等の適切な処理の仕方、見方なども学びます (DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決すべき問題を自分で設定することができるようになる。</li> <li>・問題に対して実行可能な解決方法を見つけることができるようになる。</li> <li>・データを前にして、適当な操作を行い、分析することができるようになる。</li> <li>・学術論文の形式にのっとって論理的な文章が書けるようになる。</li> <li>・自分の考えを他者に文章ならびに口頭でわかりやすく述べることができるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別演習 演習内でのパフォーマンス、研究への取り組み方を見て判断します。</li> <li>・卒業論文 テーマに関しては制限はありませんが、分析には経済学的手法を使ってください。論文の中に研究テーマに関して何か新たな知見が入っているかどうかで単位認定をしたいと考えています。</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選考基準 前年度の演習 (宮崎) 履修者は、演習内でのパフォーマンス等を見て決定します。それ以外の人は成績表・面接によって履修が可能かどうか決定します。</li> <li>・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回: ガイダンスとイントロダクション 第2回～第15回: 論文作成のための講義と演習 第16回: ガイダンス 第17～30回: 学生による報告</li> </ul> <p>個別演習時間外にも卒業予定者には卒業論文の指導を行います。</p> <p>大阪市立大学とのインゼミで卒業論文の中間発表会を予定しています。</p> <p>個別演習内での卒業論文の締め切りは2019年12月28日 (予定) とします。</p> <p>2月に卒業論文発表会を行う予定です。</p> <p><b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 時間を見つけてコツコツとやっていくことが卒業論文完成までの近道です。毎日少しの時間でもいいので、自分の卒業論文のことについて考える時間を作しましょう。</p>			

教科書・参考書等  
教科書は特にありません。

参考書として

戸田山 和久 (2012)「新版 論文の教室 レポートから卒論まで」NHK出版、1296円

を挙げておきます。

オフィスアワー 毎週月曜日14時から16時の間、南2号館3階のオフィスで行います。それ以外はアポをメールで取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・木曜5限の演習の方にも出席すること。
- ・無断欠席は厳禁です。また、多すぎる欠席も厳禁です。
- ・講義中の携帯電話やスマホの使用は禁止です。



ナンバリングコード B4ECN-bcaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314124) 個別演習 (持田) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 持田 めぐみ	関連授業科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用マクロ経済学	
	履修推奨科目	マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、応用マクロ経済学	
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、英語による経済学の基本テキストを輪読しながら知識を身につけ、理解を深めていきます。適宜、マクロ経済学の復習も行います。  受講生の希望があれば、テキスト報告以外に就職活動に備えてのグループディスカッションや、各自が関心を持った新聞記事のプレゼンなども実施します。  授業は3、4年生合同のゼミナール形式で行う予定です。毎回、授業の最初に報告担当のグループがテキスト+αの内容について調べて発表し、その後、その日の報告内容に沿って参加者全員で議論します。また同時に、報告者の発表内容についてグループワークで討議し、受講生同士が互いに教え合うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をはかっていきます。今年度は、上級生の立場から、ゼミに貢献できるよう心掛けてください。			
<b>授業の目的</b> テキストを輪読し、議論しあうことで現代社会や経済学に対する理解を深めると同時に、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けること。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
○ テキストの内容を正確に読み取り、プレゼンテーションとして、他者にわかりやすく伝えることができる。 ○ 人によって意見がわかれる可能性のあるポイントを発見し、複数の視点からの対立する意見・考え方を自ら勘案して、述べることができる。 ○ 現代社会の諸問題について、経済学の知識に基づいた客観的解釈ができ、それをわかりやすく他者に伝えることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 『個別演習』 フィールドワーク、課題レポートを含む授業全般への取り組み態度を見て判断します。  『卒業論文』 報告会の様子も含めて、総合的に判断します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 『選考基準』 「演習」の履修状況を見て判断します。  『授業計画並びに授業及び学習の方法』 1. 授業のガイダンス 2～13. テキスト報告、卒論経過報告 14～15. 前期のまとめ 16. 後期のガイダンス 17～26. テキスト報告、卒論経過報告 27～28. 後期のまとめ 29～30. 卒論&テーマ報告会  受講生の状況等に応じて、上記の計画が変化することもあります。  <b>自主学習のアドバイス</b> 1. 春休みの課題にしっかり取り組んでください 2～15. 就職活動と平行して、各自の卒論をしっかり進めておきましょう 16. 特にありません 前期の成績表を忘れずに持ってきてください 17～30. 後期の授業科目と平行して、各自の卒論を早めに仕上げておきましょう			
教科書・参考書等 初回の授業で決定します。			
オフィスアワー 初回の授業でお知らせします。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ みんなで卒業できるようにがんばりましょう！			

ナンバリングコード B4STT-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 314110) 個別演習 (横山) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4STT	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目	統計学	
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 統計的な手法を用いて日本経済を分析することを目的とする。 受講者にもよるが、教科書の輪読やコンピュータの利用を通して経済の分析や解釈について学習していく。			
<b>授業の目的</b> 4月の段階で演習履修時の全般的な知識から、個別の興味あるテーマについて分析を行うことを目的とする。個別演習参加者各自が自分の興味あるテーマに関し関連図書を参照し発表を行っていく。これらの作業を複数回繰り返すことで、最終的に卒業論文の作成につなげる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
経済のしくみについて理解できるようになる。 プレゼンテーション能力を培う。 計算機リテラシーの能力を養成する。 個別演習へのテーマを設定ができる。 必要な議論を行うことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習 出席および普段の学習態度による。無断欠席に関しては単位を認定しない可能性があるため注意すること。  ・卒業論文 卒業論文等の作成時に別途に指示を与える予定ではあるが、個別演習において行ったことをA4サイズで20枚以上にまとめることを基本とする。最終的に他の受講生を含めた中で発表を行い、その優劣を含め評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準 演習で行った程度の基礎知識を有し、個別演習においても真剣に取り組むと確約できる学生であれば受け入れる。  ・授業計画並びに授業および学習方法 4月の段階で演習履修時の全般的な知識から、個別の興味あるテーマについて分析を行うことを目的とする。個別演習参加者各自が自分の興味あるテーマに関し関連図書を参照し発表を行っていく。これらの作業を複数回繰り返すことで、最終的に卒業論文の作成につなげる。			
<b>教科書・参考書等</b> 『経済財政白書』などの政府刊行書			
<b>オフィスアワー</b> 授業の時間以外にも必要に応じて質問相談等を受ける用意がある。具体的時間に関しては第1回目の演習時において示すことにしたい。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 無断欠席に関しては単位を認定しない可能性がある。 各学生には担当部分に関して課題を与えるので、それに関して誠実に取り組むことが要求される。			

ナンバリングコード B4ECN-bcdE-20-Lx4 授業科目名 (時間割コード: 314106) 個別演習 (ラナデ) Special Seminar 数理経済学及び応用ミクロ分析 (Mathematical Economics & Applied Microeconomic Analysis)	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 4	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	経済学の全て	
	履修推奨科目	経済数学、経済数学基礎、 ミクロ、マクロなど履修は望ましい	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業で学生の卒業論文の指導します。卒業論文のテーマは学生が自分で決めますが毎回そのテーマについて5000字の文章を作って発表しなければなりません。できない人に個別演習の単位は出ません。論文は必修ですのでしっかりがんばったら単位は当然です。			
<b>授業の目的</b> 経済学を論理的・数学的に考える。特に応用を学ぶ。卒業論文の作成をする。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 周りの経済・社会のミクロlevelの問題を論理的に考えることができる。 2. その問題の応用分析ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 講義中の討論の内容によって評価する。まじめに出席して討論に積極的に参加した学生を評価します。なお、個別演習の評価は出席と発表回数で決めますが、卒業論文は内容の深さ及びOriginalityを見て決めます。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>選考基準：</b> 希望者が定員を超えない場合は簡単に受けますが、超えた場合には成績によって選考します。			
<b>授業方法：</b> 板書と討論が授業の中心です。			
<b>前期と後期の授業計画：</b> 第1回～30回：学生の希望によってテーマを選び、討論します。			
<b>自学実習：</b> Homeworkはしなければなりません。			
<b>教科書・参考書等</b> とくに決まっていますが、講義中いくつかのテキストの紹介があります。 とくに決まっていますが、講義中いくつかの本の紹介があります。			
<b>オフィスアワー</b> 基本的にいつでもOKですが-18時に研究室にいる可能性が高い。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 出席はvery very importantです。			

ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324158) 個別演習 (青木) Special Seminar 企業の社会的責任 (CSR)・企業倫理問題 の理論的、実践的解決	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 青木 宏之	関連授業科目	経営学関連の科目	
	履修推奨科目	経営学原理、現代企業論、経営学史、経営史、企業と社会	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> この演習は、近年話題となっている「企業の社会的責任(CSR)」「企業倫理」やその他の企業経営の諸側面について、自ら問題を設定し、その解決を導き出す能力を育成することを目標とする。 特にこの演習では、以下の2つの活動を重視している。 ①現代を代表する経営学理論・企業倫理論を習得し、理論的視野の確立を図る。 ②上の理論的観点に基づいて、「企業の社会的責任」「企業倫理」などの経営実践における問題へとアプローチする。 以上のステップを経ることで、本演習は「理論的視野の確立とその実践への応用」の方法を習得することを最終到達目標とする。  <b>【活動内容】</b> 卒業論文の中間報告を中心とする。ある程度の研究が完了した時点で定期的に中間報告を行うこと。卒業論文の提出には所定の中間報告回数を必要条件とする。			
<b>授業の目的</b> 少人数での学習により、論理的表現力や文章力、現代の経営問題に対する分析力や問題解決能力を習得する。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・現代を代表する経営学理論・企業倫理論を習得し、自らの寄って立つ理論的視野を確立できる。 ・上記の理論的立場に基づいて、「企業の社会的責任(CSR)」や「企業倫理」などの現代企業経営問題にアプローチし、自分なりの解決策を導き出せる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 課題遂行状況、報告状況、出席状況、討議への参加状況などを勘案して総合的に評価する。  <b>【卒業論文】</b> 文字数などの詳細は別途指示する。 文字数を満たしているか、所定の書式を満たしているか、論理性や独創性を持っているかといった点を中心に、総合的に評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 演習での成績や取り組み具合を中心的な選考基準とする。 演習を履修していない場合は、面接を行い、成績を合わせて選考する。  <b>【授業計画ならびに授業及び学習の方法】</b> 少人数でのゼミナール形式で講義を進める。 (1) ガイダンス (2) ～ (30) 卒論中間報告、卒論最終報告  <b>【自学自習に関するアドバイス】</b> (2) ～ (30) ・各自卒業論文の研究を進めておき、定期的に中間報告を行うこと。			
<b>教科書・参考書等</b> その都度各自に指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜日 3時限目 青木研究室 (幸町南7号館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・無断遅刻・無断欠席は厳禁。履修を即刻取り消す。 ・卒業論文にまじめに取り組むこと。			

ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 324147) 個別演習 (井上善) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目	簿記入門・会計学総論・株式会社会計・財務会計論A・財務会計論B・監査論	
	履修推奨科目	簿記入門・会計学総論・株式会社会計・財務会計論A・財務会計論B・監査論	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 3年次の演習を踏まえて、財務諸表監査に関する卒業論文の作成指導を行う。受講生には、卒業論文の進捗状況に関して定期的な報告を求める(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。			
授業の目的 財務諸表監査に関する卒業論文の作成に必要な専門的知識と文章作成能力を身に付ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文に関わるレジュメを作成することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。 卒業論文に関わる討論に参加することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。 自らの主張とその論拠を明示した論文を作成することができる(知識・理解, 問題解決・課題探究能力, 言語運用能力)。			
成績評価の方法と基準 選考基準: 演習における受講態度及びレポートの内容による。 単位認定方法: 日常の受講態度及び卒業論文の内容による。 卒業論文の作成要領と単位認定方針: 卒業論文の作成時に詳細について指示するが、学部の卒業論文として適切な水準の量と質が求められる。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス 第2回～第12回 卒業論文経過報告(第1次) 第13回～15回 中間報告 第16回～第26回 卒業論文経過報告(第2次) 第27～第29回 最終報告 第30回 総括と整理  自学自習  各自の報告に際しては、十分な準備が必要となる。			
教科書・参考書等 教科書: 指定しない。 参考書: 随時紹介する。			
オフィスアワー 演習終了後随時受け付ける。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 卒業論文の指導が厳しいものとなることについてあらかじめ覚悟されたい。			

ナンバリングコード B4BSN-cabE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324151) 個別演習 (繁本) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 繁本 知宏	関連授業科目	財務会計論A・B、会計学総論、株式会社会計、監査論、簿記入門、経営財務論、金融論	
	履修推奨科目	財務会計論B、株式会社会計、監査論、金融論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 3年次の演習を踏まえて、財務会計あるいはその周辺分野に関連する文献研究を行いつつ、卒業論文の執筆指導を行う。			
<b>授業の目的</b> 卒業論文の執筆に必要な専門知識を身に付けるとともに (DPの「知識・理解」)、卒業論文のテーマとしてふさわしい課題を自らの力で見出し、その課題に対して的確な分析と考察を経て合理的な結論を導く (DPの「問題解決・課題探求能力」)。その上で、分かりやすく論理的な卒業論文を作成する (DPの「言語運用能力」)。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 卒業論文の執筆に必要な専門知識を言葉や文章で的確に説明できる。 2. 独創的な研究課題を自ら見出せる。 3. 設定した課題に対して、的確な分析と考察を経て合理的な結論を導き出せる。 4. 分かりやすく論理的な論文を作成できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> (個別演習) 日常の個別演習の取組姿勢と、卒業研究の進捗ならびに質によって成績を評価する。授業における進捗報告の質やディスカッションへの参加状況も重要な評価要素である。  (卒業論文) 詳細は個別演習において説明するが、字数は20,000字以上とし、卒業論文としてふさわしい質を備えていることが必要。具体的には、既存研究の焼き直しや文献を単に整理するだけではない独創的な課題設定、先行研究の十分な読み込み、適切なデータの利用、論理的な文章構成、十分な根拠に基づく説得力のある結論、論文にふさわしい文体などが求められる。これらの達成度をもとに単位認定を判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
1. 選考基準 演習の取組状況をもとに選考する。  2. 授業計画並びに授業及び学習の方法 (1) 前期 ・各自で卒業論文のテーマを設定し、研究計画をブラッシュアップする。 ・研究の進捗状況を定期的に報告し、ゼミ生全員でディスカッションを行う。 (優れた論文を作成するためには、他人からの指摘が非常に役に立つ) ・論文執筆に必要な知識を補強するため、各人の研究テーマに関連した研究論文を題材としたディスカッションを、ゼミ生全員で行う。 (2) 夏休み中 ・各自で論文の柱となる分析を行う。 (ここで分析の大半に目途を付けておかないと締切に間に合わない公算大) (3) 後期 ・論文作成の進捗状況を定期的に報告し、ゼミ生全員でディスカッションを行う。 ・授業時間だけでは行き届いた指導が難しいと思われるため、個別演習の授業時間外において、個別指導を適宜行う。  なお、知識の再確認や定着、さらには卒論執筆にも役立つと思われるため、3年生の演習にコメンテーターとして参加してもらうほか、卒論作成の途中報告を数回、3年生の前で行ってもらう予定である。  (自学自習のアドバイス) 卒論作成は長期的な計画に基づくことが必要。4年生は就活などに時間を取られがちだが、少しずつでも時間をみつけて作業を進めることを心掛けてもらいたい。			

教科書・参考書等

特定のテキスト、参考書は指定しない。各自の研究テーマに即した文献を随時紹介する。

オフィスアワー 初回授業時に指定する。ただし、指定時間以外でも、事前連絡があれば学習相談に随時応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒論作成は能動的な行動が非常に重要。「言われるまでやれない」「ギリギリにならないと動けない」という受動的な姿勢を取ってしまうと卒論完成は覚束ない。かなり長い文章が要求されることもあり、要領の良さだけでは乗り切れない面があることを肝に銘じて、真摯に卒論作成に取り組んでもらいたい。

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324160) 個別演習 (向) Special Seminar 国際経営ゼミナール International Management Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	国際経営論、経営学概論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析	
	履修推奨科目	国際経営論、経営学概論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、マーケティング論、調査データ分析	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 卒業論文作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文に必要となる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に付ける。また国際経営の理論と研究方法論を活かして、多国籍企業の経営活動の実証研究を行い、卒業論文を作成する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際ビジネス戦略とマネジメントについて問題意識を持ち、かつ適切な方法で調査・研究し、論理的な文章を書くことができる。</li> <li>卒業論文に関わるレジュメや論理的な文章を書くことができる。</li> <li>卒業論文に関わるプレゼンテーションと討論を通じて、自らの主張を他人に明確に伝えることができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>個別演習 卒業研究の進捗状況と成果、ゼミ活動へのコミットメントと貢献により総合的に評価する。</li> <li>卒業論文 卒業論文は、以下の条件を満たさなければならない。卒業論文の完成度と面白さに応じて評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生らしい問題意識を出発点とした国際経営に関する研究</li> <li>②先行研究を踏まえた上で書かれていること</li> <li>③書式にのっとって書かれていること (書式については別途指示する)</li> <li>④論理性と独創性を持っていること</li> <li>⑤文字数は20,000字以上</li> </ol> </li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 <ol style="list-style-type: none"> <li>①3年生の演習から継続する場合は、特に選抜を行わない。</li> <li>②4年生から新規に個別演習に参加したい場合は、志望理由書、研究計画書および面接により選考する。</li> </ol> </li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 <p>第1回           イントロダクション</p> <p>第2～29回       研究発表および個別指導</p> <p>第30回          卒業論文発表会</p> <p>なお、ローテーションで3年生演習の補助をしてもらうこともある。</p> 【学習方法に関するアドバイス】 <ol style="list-style-type: none"> <li>①演習生は教員のサポートの下で、主体的に卒業論文に取り組むこと。</li> <li>②演習生は自らの進捗状況を把握しながら、計画的に研究を進めること。</li> <li>③毎回の中間発表の前日までに、発表者は原稿をゼミ全員に送付して、目を通してもらうこと。</li> <li>④演習生は他人の発表内容に対して、建設的な意見を積極的に述べること。</li> </ol> </li> </ul>			
教科書・参考書等 特定の教科書を使わないが、卒業論文作成上有益な参考書を、随時各自に紹介する。			
オフィスアワー 事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> <li>無断欠席は厳禁。</li> <li>体調管理に気を付けて、時間に余裕を持って、卒業論文に取り組むこと。</li> </ul>			



ナンバリングコード B4BSN-cbaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324161) 個別演習 (趙) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	経営学関連科目	
	履修推奨科目	マーケティング論、経営戦略論、 流通システム論	
学習時間 演習90分×15回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 大学で学ぶことは、特に社会科学の場合は、「社会で起きている出来事を、研究の世界で言われていること（理論）と照らし合わせながら理解する力を付けること」です。理論は、「個々の現象を法則的に、統一的に説明できるように道筋を立てて組み立てられた知識の体系」です。「個々の現象」とは世の中で起きている出来事ですが、現実（「個々の現象」）は常に変化しているわけです。理論は現実を説明するためのものですから、現実がかなり変化していると、理論はいずれ当てはまらなくなります。そうすると、新たな現実には当てはまるように理論を作りかえなければなりません。本個別演習では、このような作業をマーケティングや流通の分野に焦点を当てて行います。			
<b>授業の目的</b> 本個別演習では、マーケティングや流通における理論を学び、そこで起きている現実を理論的に眺めて見る、あるいは理論を現実的な側面から眺めてみることを通じて、自ら問題を発見し、解決策の仮説（仮の答え）を立て、検証する作業を行います。本演習はこのようなトレーニングを通じて、マーケティングや流通の現象を深く理解することはもちろん、「問題発見能力」、「問題解決能力」、いわゆる「現実を見る目（社会で起きていることを理論と対応させながら考える力）」を養うことを、目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかわりをもつか理解できる。 2. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つか理解できる。 3. ある問題について論理的に考える、伝える、討論する、文章で表現できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・ 個別演習 卒論進行状況、出席状況、報告内容、議論への参加度、ゼミ活動などの状況に基づいて総合的に判断します。  ・ 卒業論文 図表含まず20,000字以上。マーケティングや流通にかかわるテーマを選ぶこと。インタビュー調査あるいはアンケート調査を実施すること。関連する論文や新聞・雑誌などを十分に読むこと。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・ 選考基準 演習での取り組み状況（演習への積極性、卒論進行状況、出席状況、ゼミ活動への参加度など）により、総合的判断します。  ・ 授業計画並びに授業及び学習の方法 マーケティングや流通にかかわる現象（問題）を卒論のテーマとして自由に選び、毎回の個別演習では数人の報告担当者がレジュメを作成・報告し、議論を行う。 最終回に卒論報告会を開催する。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料を配布します。			
オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ゼミ生同士がお互いの卒論テーマに関心を持ち、個別演習やそれ以外の時間においても普段から議論や相談をすること。 指導員と十分な相談や議論を行うこと。 演習に迷惑をかけるような行動、遅刻、無断欠席がある場合には単位を与えません。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324162) 個別演習 (張) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目	経営史、現代企業論	
	履修推奨科目	経営史、現代企業論	
学習時間 授業時間90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本演習では、企業のあり方及びその歴史的成因について研究を行い、それを卒業論文として完成させる。 主な内容は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの研究成果を踏まえて、各自の卒論テーマを改めて設定する。</li> <li>・卒論に向けて、中間報告を定期的に行い、ディスカッションをし、論文の修正を随時行う。</li> <li>・卒論を完成させる。</li> </ul>			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は下記のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の経営上の問題を歴史的な視点を用いて分析することができる。</li> <li>・必要とする資料へのアクセス方法を習得できる。</li> <li>・自ら研究課題を設定し、それを資料を駆使して論理的に説明することができる。</li> </ul>			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の抱える問題を歴史的に思考することができる。</li> <li>・グループワークの力を借りて、最終的に自力で研究課題を解決することを学べる。</li> <li>・自分の考え方を文書にして、論理的に説明することができるようになる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 以下の3点を配慮し、総合的に勘案する。 ①出席状況、②中間報告への取り組む姿勢、③課題遂行状況  <b>【卒業論文】</b> 卒業論文は以下の諸点を達成できることを条件とする。達成度を鑑み卒論の成績とする。 ①先行研究を踏まえたうえ、研究目的をはっきりと明示する。 ②資料の使い方は適切である。 ③論理展開は明瞭で説得力がある。 ④一定の独創性を有する。 ⑤2万字以上である(図表のスペースも含む)。 ⑥所定の書式を遵守する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 3年次「演習」に基づき、小論文を提出して、合格したもの。  <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 第1回 オリエンテーション：授業に関する説明と課題設定 第2～9回 中間報告・ディスカッション 第10～14回 個別指導+グループワーク 第15回 前期のまとめ  第16～21回 中間報告・ディスカッション 第22～30回 卒業論文報告・学内ゼミとのジョイントゼミ報告			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書指定なし。 それぞれのテーマに即して随時案内する。			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文は私たちが社会に向けての最初の名刺となります。その作成過程を大切にしていきたいと思います。			

ナンバリングコード B4BSN-cbdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324136) 個別演習 (藤村) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cbdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 藤村 和宏	関連授業科目	流通システム論A、流通システム論B	
	履修推奨科目	マーケティング論A、マーケティング論B	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 高校までの授業は、答えのある問題が与えられ、その答えを見つけ出す方法・知識の習得を中心に行われるのに対して、大学の講義は、答えのない、解決すべき問題を自ら発見し、その答えを自ら生み出す能力の習得を中心に行われるべきであると考えている。そのため本演習では、マーケティングに関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得することを目的としている。 具体的には、テキストを輪読するとともに、卒業論文の作成を行う。さらに、マーケティングの学習においては、自ら経験し五感で感じることで、そこから問題を発見することが重要であるので、企業見学あるいは異文化体験を行う。 また、研究テーマを自ら設定して理論的・実証的に考察を行うとともに、3年生の演習にも参加し、下級生を指導しながら自らも学ぶ必要がある。 卒業論文については、12月あるいは1月に行う合宿で発表し、討議を行う。			
<b>授業の目的</b> マーケティングに関する理論的・実証的研究を通じて、自ら問題を発見し、理論的に考察することで仮説を構築し、量的あるいは質的調査によって検証する能力を習得すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティング問題に関心を持つことができる。 2. 新聞や専門誌のマーケティング戦略に関する記事を理解・解説できる。 3. 仮説を構築し、検証するための技法を習得できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <個別演習> 個別演習単位の認定は、出席状況(10%)、レジュメによる報告内容(20%)、卒業論文研究活動および論文(50%)、討議内容(20%)により総合的に判断する。 <卒業論文> 卒業論文の作成においては、学生らしい視点でマーケティング、流通、消費者行動などにかかわる問題を理論的および実証的に考察しなければならない。なお、卒業論文は以下の条件の中の2つ以上を満たしていなければならない。 1. 外国語文献を用いる。 2. 質的あるいは量的調査を実施する。 3. 多変量解析ソフト(SPSS)を用いて分析する。 書式及び分量は、以下の要件を満たしていなければならない。 1. 分量は20,000字以上で、A4判上質紙にワードプロセッサで書くこと。 2. 表紙、目次、参考文献、頁番号(表紙および目次以外の頁に通し番号で)は必ずつけること。 単位認定は研究内容の独創性(30%)と考察内容(70%)に基づいて行う。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <選考基準> 個別演習選考基準の以下の4点である。 (1) 演習での報告および討議内容 (2) 卒業論文のテーマと作成意欲 (3) 演習への参加状況および態度 (4) 演習でのグループ研究活動の状況と発表内容			

<授業計画並びに授業および学習の方法>

第1回            ガイダンス

第2回～15回    輪読によってマーケティングに関する理論の修得と討議

第16回～30回  輪読によってマーケティングに関する理論の修得と討議+ 卒論の研究発表

**【自学自習に関するアドバイス】**

第1回～30回    各回の文献を読むとともに、重要な概念や理論、関連ケースを調べる。  
また、卒論研究を理論的・実証的に行う。

教科書・参考書等  
随時指示する。

オフィスアワー        月曜日：10時～12時 18時～20時

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

3年生の演習にも参加し、彼らを指導することで、自らも学ぶ。

ナンバリングコード B4BSN-cadE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324155) 個別演習 (古川) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cadE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 古川 尚幸	関連授業科目		
	履修推奨科目 環境システム論、商品システム論、資源エネルギー論、商品実験		
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について総合的な研究を行い、卒業論文を作成します。 商品：商品学の視点から見た商品の適商性に関する研究 環境：商品学の視点から見た循環型社会に関する研究 地域活性化：商品学の視点から見た地域資源の再評価に関する研究  「商品」・「環境」・「地域活性化」のどの分野においても、フィールド調査を取り入れた研究を行います。その他、工場見学なども予定しています。			
<b>授業の目的</b> 「商品」・「環境」・「地域活性化」について、商品学の視点から、基礎的な考え方を身につけ、卒業論文を作成することを目的とします。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①商品学の視点から見た商品の適商性について、基本的な考え方を身につける。 ②商品学の視点から見た循環型社会について、基本的な考え方を身につける。 ③商品学の視点から見た地域資源について、基本的な考え方を身につける。 ④商品学の視点から、各自で決定したテーマに基づき卒業論文を作成し、自分の考えを構築することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 出席状況と取り組み姿勢、卒業論文により評価します。  <b>【卒業論文】</b> 設定した各自のテーマをもとに、資料やデータを収集し、2万字以上にまとめます。その他の詳細については別途指示します。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 研究テーマに関心があり、ゼミ活動全般に積極的に取り組む意欲と協調性のある学生を希望します。フィールド調査を取り入れた研究を行いますので、積極性を重視します。選考については、演習での出席状況と学習態度により選考します。  <b>【授業計画および授業方法】</b> 各自の卒業論文テーマに基づきフィールドワークを行い、卒業論文を作成します。フィールドワークを行うたびに、大学内で活動報告を行います。  卒業論文テーマについては、教員と学生間で相談したうえで決定します。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は適宜指示します。 参考書は随時指定します。			
オフィスアワー 金曜日4時限目 経済学部2号館2F古川研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文の作成にあたり、必ずフィールドワークを行います。積極的にフィールドワークに取り組むことができる学生を希望します。 学生教育研究災害傷害保険に加入していることが条件です。			

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード:324140) 個別演習 (松岡) Special Seminar 経営組織のマネジメントの研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営組織論A, 経営組織論B, 人的資源管理論A, 人的資源管理論B, 経営戦略論A, 経営戦略論B	
	履修推奨科目	経営組織論A, 経営組織論B, 人的資源管理論A, 人的資源管理論B, 経営戦略論A, 経営戦略論B, 経営統計学, 調査データ分析	
学習時間 講義90分×30回+自学自習			
授業の概要 卒論作成のための研究指導を行う。			
授業の目的 卒業論文に必要な専門分野に関する応用的な知識や研究遂行能力を身につける (学士課程のDP「知識・理解」および「問題解決・課題探求能力」に対応)。 また、相互にコメントをしあえる環境を作り、ゼミ全体として質の高い研究成果を出せるように取り組む。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織理論についての応用的な知識を述べることができる。</li> <li>・文献レビュー、調査の設計、データの収集・分析、論文の執筆を行うことができる。</li> <li>・他者の研究 (4年生卒論, 3年生プロジェクト研究) に対して、建設的な批評や助言を行うことができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 個別演習: 受講態度 (準備状況および討議への貢献度など), 個別研究の進捗状況により、総合的に評価する。  卒業論文: 下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営組織のマネジメントに関連した研究テーマが選択されていること</li> <li>・既存研究を踏まえた上で書かれていること</li> <li>・独自にデータの収集・分析を行って作成された実証研究であること</li> <li>・研究論文作成のための様式にのっとって書かれていること (詳細はゼミ時に指示)</li> <li>・分量の目安は20,000字以上</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<b>【選考基準】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への取り組み状況および研究計画書により選考する。</li> <li>・他演習からの移籍の場合には、研究計画書および面接により選考する。</li> </ul> <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 卒論の進捗報告と質疑が中心となる。おおよその予定は以下の通り。  (前期) 第1回     イントロダクション 第2回～第14回   進捗報告 第15回   卒論中間報告会 (3年生と合同)  (後期) 第16回   進捗経過報告会 (3年生と合同) 第17回～25回   進捗報告 第26回～29回   個別指導 第30回   卒論報告会 (3年生と合同)  受講者は、2～3週に一度程度の頻度で報告を行う。報告担当者は、プレゼン資料を作成した上で人数分コピー・配布し、プレゼンテーションと質疑への応答を行い、今後の研究課題を明確にしていくことが求められる。卒論提出後の報告会は公開の形式で実施する。			
教科書・参考書等 特定のテキストは用いないが、各人の卒業論文作成上有益な書籍は随時紹介する。			
オフィスアワー 開講時にアナウンスする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席は厳禁 アンケート調査により論文を執筆しようとする者は、調査データ分析、経営統計学のいずれかを履修済み、あるいは履修予定であること。			

ナンバリングコード B4BSN-cabE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324143) 個別演習 (松岡・細見) Special Seminar 人のマネジメントに関する研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cabE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 松岡 久美, 細見 正樹	関連授業科目	経営組織論、人的資源管理論、経営統計学、調査データ分析	
	履修推奨科目	調査データ分析	
学習時間 個別演習の時間外に自主的に研究をおこなう必要がある。			
授業の概要 卒業論文の執筆指導を行う。			
授業の目的 ・卒業論文の作成に必要な専門的知識、分析のための技法、文書作成能力を身につける (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存文献を読み込み、自身の研究テーマを設定できる。</li> <li>データ分析の知識を持ち、実際に適切なデータを用いて一定の結論を導くことができる。</li> <li>説得的かつわかりやすい文書を作成することができる。</li> </ul>			
成績評価の方法と基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度個別演習単位認定方法 卒業論文への取り組み姿勢、完成した卒業論文の内容により評価する。</li> <li>2019年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文: 下記の要件を満たしている場合に卒論としての提出を許可し、その内容に応じて評価を行う。</li> <li>経営学に関連した研究テーマが選択されていること</li> <li>既存研究を踏まえた上で書かれていること</li> <li>適切に収集されたデータを分析した上で作成された実証研究であること</li> <li>研究内容、結論にオリジナリティを有すること。</li> <li>研究論文作成のための様式に則り書かれていること</li> <li>分量の目安は20,000字以上</li> </ul>			
授業計画並びに授業及び学習の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>選考方法 個別演習の履修する条件は、研究テーマが明確であり、論文作成に向けて計画的に取り組む意欲があること。個別演習の選考はおこなわない。</li> <li>授業計画 第1回 イン트로ダクション 第2回～ 研究発表および個別指導 第30回 卒業論文発表会</li> <li>学習方法 自身の研究の進捗状況を把握し、計画的に作業を進めることが求められる。早めに既存研究を丹念に調べて、問題意識を明確にすること。また、データ収集には時間がかかるので、常に前倒して作業を進めてることが求められる。</li> </ul>			
教科書・参考書等 必要に応じて指示する。			
オフィスアワー 別途指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習の進め方については、第1回の演習時に説明する。 積極的にメールで卒業論文の内容について相談すること。 卒業論文で量的分析を用いる学生は、「調査データ分析」を受講すること。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324157) 個別演習 (朴恩) Special Seminar 卒業論文を書く	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学総論、株式会社社会計、監査論	
	履修推奨科目	会計学総論、株式会社社会計	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> ここでは、それまでの会計分野の内容に関してより高度な理論と実践を身に着けます。今までの講義と3年次の演習が知識の習得に重点を置いていたとすれば、個別演習では興味のある一つの分野を深く掘り下げ、問題を発見し、論理的に解決して行きます。			
<b>授業の目的</b> 3年次の演習ではさまざまな授業からの関心領域を会計分野に絞っていくプロセスで、知識の習得が中心にあったといえます。 個別演習は、授業の展開は3年次の演習と同様、プレゼンテーションと討論の形式ですが、自分の卒業論文作成のプロセスを他のゼミ生と共有し完成して行く点で大きく違います。自分の考えが形となり、人々に伝わり、討論の対象になることで、今まで習得した知識が活かされる実感が得られ、自分の論理がまとまります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
一つのテーマに関して、論理的な思考ができる。 論理的な思考をまとめ、文章をとおして他人を説得することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 卒業論文作成の進行状況、態度などを重視します。さらに、進行状況を報告するに当たり、浮かび上がるさまざまな疑問点に対して、討論という形式を借りてどう解決していくかもひとつのポイントとなります。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別演習選考基準 卒業論文のための準備や取り組み状況を見て、判断します。特に、演習での総合評価が主な判断基準となります。</li> <li>・ 卒業論文の作成要領と単位認定方針 卒業論文の作成は以下のプロセスで指導し、取り組みの態度と成果をみて、総合的に判断します。</li> </ul> <p>4月～5月 3年生の演習を通して、自分が興味を持つテーマを複数取り上げて、それに関する簡単な報告を行います。</p> <p>6月～7月 テーマをひとつ絞って、そのために必要な参考文献や論文などを探し、そこからそのテーマを選んだ理由や論文の意義、目次と各章への大まかな内容を決めていきます。7月の最後の個別演習では目次が確定します。ここでは、選んだテーマに関する多くの資料と情報を探ることが重要となります。</p> <p>8月～9月 (夏休み中) 論文テーマに関連する資料を徹底的に探し、後期の論文作成に備えます。</p> <p>10月～11月 毎回1章ずつ論文を作成・報告してもらい、個別に細かい指導を行う。次の回には修正分と新しい章を用意します。(2～3人のチームへの個別指導体制)</p> <p>12月 論文を書き上げます。</p> <p>1月 細かい修正作業後、完成論文を提出します。</p>			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は指定しません。			
<b>オフィスアワー</b> 木曜 3限			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 論文作成のためには、根気よく関連分野に関心を持ち続ける必要があります。			



ナンバリングコード B4BSN-bcaE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324150) 個別演習 (朴鏡) Special Seminar 管理会計の理論と実践	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計学関連授業科目	
	履修推奨科目	経営学関連授業科目	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業では、管理会計の理論と実践に関する研究の指導を行う。 前期では、卒業論文の研究計画書を基にゼミ生による発表を行うほか、意思決定、原価管理、業績評価などに関する文献研究を行う。 後期では、各自が設定した研究テーマに関連する文献をレビューしてもらい、卒業論文の完成に向けて論文指導を行う。			
<b>授業の目的</b> 管理会計の理論と実践に関する基礎知識を身につける(DPの「知識・理解」に対応)とともに、経営意思決定、原価管理、業績評価等の諸問題について管理会計情報を用いて分析できるようになる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経営管理プロセスにおける管理会計の役割について説明できる。 2. 管理会計情報を用いて代替案間の優劣を評価できる。 3. 管理会計情報が人や組織の意思決定に及ぼす影響について説明できる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習 出席状況、ゼミ活動への参加度、卒業論文への取り組み、報告内容などを総合的に評価して決定する。なお、無断欠席3回以上の場合は単位を認定しない。 ・卒業論文 本文20,000字以上で、論理性、新規性を重視して評価する。その他、作成要領については個別演習の中で別途指示する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
・選考基準 演習の成績による。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション 第2回～第6回 研究テーマの選定と研究計画の発表 第9回～15回 管理会計文献の輪読・討論 第16回～30回 卒業論文発表と個別指導			
<b>教科書・参考書等</b> テキストと参考書は初回の授業で紹介する。			
<b>オフィスアワー</b> 月曜日13時～14時の間、朴研究室において随時、質問・相談などに応じる。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文の進捗状況に応じて授業時間や日程を調整する場合がある。			

ナンバリングコード B4BSN-bcdE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 324148) 個別演習 (宮脇) Special Seminar エンパワーメントと管理会計情報	科目区分 専門教育科目	時間割 前期金5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	管理会計および経営学関連の授業科目	
	履修推奨科目	会計学・経営学関連の授業科目	
学習時間 講義90分×30回+α+自学自習			
<b>授業の概要</b> このゼミの目標は、ゼミナール活動を通して、個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章作成能力）を高め、様々な「人間力」を成長させることです。社会に出て必要な力、就職活動で求められる力、そして、ゼミの2年間（特に3年生の1年間）で身に付けなければならない力は、全てフラクタル（自己相似）な関係にあり、無関係ではありません。みなさんには、「社会に出て生きていく」ことから逆算した準備が必要であり、そうした意識を持った上で、自分を見つめ、成長していこうとする意志と行動力が求められています。			
<b>授業の目的</b> 社会と大学とゼミナールをフラクタル(自己相似)な関係として捉え、そこから必要とされる知識・技法・マナーを、仲間との相互作用を通して身に付けること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
個人のコンピテンシー（コミュニケーション能力、自己表現能力、論理思考能力および文章・資料作成能力）を高め、様々な「人間力」を磨くことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> [個別演習] (1)出席（原則：毎回）、参加態度、プレゼンテーションおよび研究活動 (2)卒業論文  [卒業論文]（20,000字以上） (1)演習および個別演習の研究活動の成果を反映しているもの (2)学術的な貢献があり、かつクリエイティブでオリジナリティーに溢れるもの			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> [選考基準] 演習の結果（成績がA以上）、基本能力、協調性および面接  [授業計画ならびに授業および学習の方法] (1)卒業論文作成に向けた資料の収集・分析および報告 (2)就職あるいは進学に必要なコンピテンシーを高める （読解・題名当てクイズ、グループディスカッション(民法・政治のしくみなど)、プレゼン寅さん、各種資格試験の勉強など） (3)3年生の演習指導  ※オプションとして、“Work Shop”では簿記を、“ELP(Effective Listening Practice)”では英語のリスニングを学習することができます。また、“ENJOG”ではウォーキングによる体力作りを行えます。			
<b>教科書・参考書等</b> 随時指定			
<b>オフィスアワー</b> 随時			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ※自分の足元をしっかりと見つめるとともに、将来を見据え、今できることを着実に積み重ねることが大切です。また、「学生の時にしかできないこと」にいろいろとチャレンジして欲しいと思っています。			

ナンバリングコード B4BSN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 324133) 個別演習 (安井) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	リスクと保険, 保険システム論等	
	履修推奨科目	リスクと保険, 保険システム論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 個別演習においては、卒業論文の作成が中心となる。毎回、担当者に卒業論文の中間報告をしてもらう。さらに担当者の報告に対して全員で討論を行う。			
<b>授業の目的</b> 卒業論文に必要となる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身につける。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
卒業論文に関わるレジュメないしレポートを書くことができる。 卒業論文に関わるプレゼンテーションができる。 卒業論文に関わる討論ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別演習 報告, 授業への参加状況, レポート, 卒業論文を総合して評価する。</li> <li>卒業論文 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。 論理展開, 説得力, 独創性などの観点から総合的に評価する。</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>選考基準 演習における研究活動を考慮して、研究意欲の高い学生を受け入れる。 報告, 授業への参加状況, レポートを総合して評価する。</li> <li>授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 卒業論文作成に向けたガイダンス 第2回～第14回 卒業論文の中間報告 第15回 演習内卒論報告会</li> <li>自学自習について 毎回、何らかの課題があるので、熱心に取り組むこと,</li> </ul>			
<b>教科書・参考書等</b> 最初の講義時に指示する。 適宜, 指示する。			
<b>オフィスアワー</b> 現段階では、演習開講日の3時限とする。 参加できない演習生がいる場合には、全員参加できる日時に変更する。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 卒業論文は20,000字以上とする。詳細については、個別演習において説明する。  論理展開, 説得力, 独創性などの観点から総合的に評価する。			

ナンバリングコード B4BSN-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 324165) 個別演習 (渡邊) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4BSN	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分×30回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 卒業論文作成のための研究指導を行う。 履修者は毎回、研究の成果を発表し、さまざまな議論を通じて論文の質を高める。			
<b>授業の目的</b> 卒業論文作成に必要なとなる専門分野に関する応用的な知識や文章作成能力を身に着ける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流通論を通して、地域商業の事例を理解、分析、課題解決ができる。</li> <li>・ 地域商業によるまちづくり活動に関する卒業論文を作成できる。</li> <li>・ ある課題に対して論理的思考のもと、研究できる。</li> </ul>			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【個別演習】</b> 研究の進捗状況、出席状況、討議への参加などにより総合的に判断する。  <b>【卒業論文】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流通論に関連した研究テーマが選択されていること</li> <li>・ 先行研究をふまえたうえで書かれていること</li> <li>・ 所定の書式に従って作成されていること (書式については別途指示をおこなう)</li> <li>・ 研究倫理に十分な配慮・対応をしていること</li> <li>・ 分量は20,000字以上であること</li> </ul>			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習の取り組み状況、研究計画書により選考する。</li> </ul> <b>【授業計画並びに授業及び学習の方法】</b> 第1回：イントロダクション 第2～29回：卒業論文の進捗状況報告と質疑 第30回：卒業論文報告会  演習生は、自身で研究の進捗状況を把握し、計画的に論文の執筆を行うことが求められる。 演習生は、2週に1回程度報告を行うことが求められる。 報告者は、研究の進捗状況などを示すレジюмеを作成した上で、人数分コピー・配布し、プレゼンテーションを行うことが求められる。 報告を行わない者は、報告者に対し建設的な批判や助言をおこなうことが求められる。			
<b>教科書・参考書等</b> 必要に応じて、資料を配布する。			
<b>オフィスアワー</b> 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 無断欠席厳禁 報告・連絡・相談を行うこと。			

ナンバリングコード B4SCL-bceE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 334176) 個別演習(緒方) Special Seminar 卒業論文執筆ゼミナール	科目区分 専門教育科目	時間割 前期火2	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 緒方 宏海	関連授業科目	文化人類学、社会調査法	
	履修推奨科目	文化人類学、社会調査法	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 基本的には各自が授業時間外に調査研究を進めることになる。 時間外学習の成果をゼミや教員指導の折に報告し、コメントをもらって、卒業論文の完成を目指す。			
授業の概要 三年次の「文化人類学演習」で学習し、ゼミ論として仕上げたものを基礎としながら、学生が決めた卒論テーマについて、厚い民族誌となるようにさらに調査・研究を重ねていく。その過程で、教員との面談、演習での卒論発表、議論をすることを通じて、四年間の学習の集大成としてよりより卒業論文の完成をめざす。			
授業の目的 この個別演習は、実証的な研究課題を学生各自で設定し、文化人類学的な視点から研究した卒業論文を執筆・完成させることが目的である。文献などの二次情報だけでなく、自らの観察や聞き取りにもとづいた第一次情報の収集力と分析力を訓練し、文化人類学と社会学さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につけることをめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 先行研究を批判的に読み解く力を身につける。 2. ある社会や地域・集団を対象にして人類学のフィールドワークを企画・立案し、実際にデータ収集・分析を行うことができる。 3. 人類学と社会学さらにその関連分野の問題発見力と思考力を身につける。 4. 卒業研究を完成し、自己の研究テーマについて一定の方法論と知識を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 1. 個別指導の折の内容 (20%) 2. 合同ゼミや中間発表会での口頭報告の内容 (20%) 3. 提出されて卒業論文の内容 (60%) ※評価基準: 形式、2万字以上、資料の質と量、論理、オリジナリティの各点について評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 ①卒論にむけて計画を見直し、関連する先行研究などの検討を行なう。 ②前期終了時まで卒論のアウトラインを作成し、全体の構成とその進捗状況を確認し、今後必要な具体的作業を確定する。 ③卒論の内容をゼミで報告する ④夏休みに補足調査を実施する。 ⑤担当教員のコメントを受けて内容を修正をする。 ⑥他大学の学生と共同の卒論発表会にて卒論を発表する。 ⑦12月初めまでに最終原稿を教員提出する。教員から返却された原稿を修正する。 ⑧1月に完成原稿を提出する。			
【選考基準】 ・文化人類学、社会調査法を履修していること。 ・3年次「演習(緒方)」において、ゼミ論を提出し合格した者。 ・上記以外の学生については、それと同等の学力があること。			
教科書・参考書等 教員が必要に応じて指示する。 ただし、各自が卒業論文に必要と考える図書は必ず自分で購入するか、図書館から借りるなど自主的に行うこと。 オフィスアワー 水曜日14時から17時南キャンパス2号館3階緒方宏海研究室。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 自らから現場へ向かい、自分自身で収集してきたデータを出発点として、自分が生きる世界のあり方やものの考え方を根源的に問い直すことこそが、人類学の目指すところである。この演習では、フィールドに飛びこみ、「他者」や「異文化」に自己の身をさらすこと、果敢に調査・研究に取り組むことができる学生を歓迎する。			

ナンバリングコード B4ECN-abcE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 334195) 個別演習 (川端) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4ECN	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 川端 美都子	関連授業科目	アメリカ社会論, 外国語演習, グローバル社会概論 (文化社会論)	
	履修推奨科目	アメリカ社会論, 外国語演習, グローバル社会概論 (文化社会論), 異文化間コミュニケーション論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (授業内容により延長の可能性あり)			
<b>授業の概要</b> 本演習では、判的理論・実践として大きく発展してきた「パフォーマンス理論」や、「フィールドワーク」という手法を用いながら、各自が決めたテーマについての調査・分析を実施し、卒業論文を完成させる。  前期は、継続して卒業論文と関連した調査・分析を各自で進め、報告する。フィールドワーク (Eフィールドワークを含む) やインタビュー調査の継続的实施や、データの分析作業をある程度終わらせる。 後期は、各自の卒業論文の成果を発表し、議論を通して文章の推敲をする。  前期・後期ともに、データ分析の視点について文献を読み、また執筆方法の指導を行う。			
<b>授業の目的</b> 本授業の目的は、主に以下の4点である： ①卒業論文の執筆や発表に必要となる、文章読解能力 (日本語と他言語)、論理的な文章作成能力や表現力を身につける ②さまざまな社会・文化現象について「パフォーマンス」という視点から、批判的に分析することができるようになる ③さまざまな方法を用いて実施した民族誌的調査で得られたデータを分析し、その結果の考察ができるようになる ④卒業論文を完成させる			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 速く、かつ正確に文献を読み、書くことができる 2) 自分の考えをレポートや、議論において、適切に (語彙・文法レベルにおいても) 表現できる 3) エスノグラフィーやフィールドワークと関連したリサーチ法や方法論について説明でき、自分の調査内で実践することができる 4) パフォーマンス理論・批判理論を適用させて、自分が収集したデータを分析することができる 5) 卒業論文を完成させる			
<b>成績評価の方法と基準</b> 以下の内容を総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での発表</li> <li>・授業内での討論への参加・貢献度</li> <li>・卒業論文への取り組みのプロセス</li> </ul> <b>【2019年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主観的になりすぎてはいないが、オリジナリティのある卒業論文となっている</li> <li>・「先行研究批判Literature Review」、「調査方法・方法論」、「論文の構成」etc. 3年生の演習第1週目に配布した卒業論文のフォーマットに準じている</li> <li>・論理的な文章が作成できている (何度も推敲を重ねたものとなっている)</li> <li>・先行研究の量・質ともに問題がない</li> <li>・調査をやりっぱなしにせず、フィールド内の人々と、意味のある人間関係を築けている</li> <li>・調査で得られたデータの個人情報・人権保護ができています</li> <li>・夏合宿、後期 (10月) にフォーラム形式で発表を行い、その後、文章の推敲に入る</li> </ul> 「個別演習」においては、最低3回の卒業論文に関する報告 (前期・夏合宿・後期) を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を作成していく。また、完成原稿の確認も2～3回のチェック段階を経てからの提出となる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字数20,000字以上とする。上限は設けない。</li> </ul>			

## 授業計画並びに授業及び学習の方法

### 【演習選考基準】

前年度に当教員による演習を受講していない場合は、以下のものを提出すること。

- ・卒業論文研究テーマ
- ・研究テーマ選択理由
- ・テーマに即した先行研究についての文献解題
- ・今年度の研究計画書（目的・研究方法）
- ・履修科目の成績表

上記の内容に基づき、面談を実施します。

### 【授業計画】

以下のスケジュールで演習を行う予定ですが、受講者の理解や研究の進展等により、変更する可能性があります。

○前期：

- 第1週目：ガイダンス（復習）、ライティング・グループ計画表
- 第2-5週目：データ分析：輪読・議論（1）
- 第6-9週目：文章検討：輪読・議論（2）
- 第10-14週目：卒業論文発表・議論
- 第15週目：総まとめ

夏合宿

○後期：

- 第1週目：イントロダクション 要旨・効果的なタイトル
- 第2週目：卒論発表フォーラム準備
- 第3-9週目：卒論発表フォーラム
- 第10-14週目：グループワーク・議論
- 第15週目：総まとめ

※2019年12月16日までに、完成原稿①を提出。

年明けには修正した完成原稿②を提出

→この時点で完全に修正で来ていなかった場合は完成原稿③を提出

※ゼミ旅行など、ゼミ運営に関わるイベントは、学生が主体で計画・実施・運営していくことになります。

### 【授業および学習の方法】

演習時間内では、効果的にノートを取りながら（パソコンの利用可）、積極的に議論に参加すること。また、授業外でも、自主学習や調査に、継続して積極的に取り組んでいくこと（これが、いずれ卒業論文へと繋がっていくため）。

また、輪読する教科書には英語のものがあるので、計画性を持って取り組む必要がある。

ライティング・グループ内で、必ず卒業論文執筆進度目標を決定し、成果を提出する

### 教科書・参考書等

#### 【教科書】

高橋雄一郎ほか。（2011）.『パフォーマンス研究のキーワードー批判的カルチュラル・スタディーズ入門』世界思想社、¥2,700（税込み）

Murchison, Julian. (2010). *Ethnography Essentials: Designing, Conducting, and Presenting Your Research*. San Francisco: Jossey-Bass. ¥5,000程度

Turabian, Kate L. (2007). *A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers, 7th edition*. Chicago: The University of Chicago Press. (中古品¥700程度)

その他、適宜資料を配布する。

3冊目については入手方法を第1回目の授業で説明する。

オフィスアワー 経済学部3号館3階 川端研究室

月曜：12時半～14時半

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

「正当な」理由ではない遅刻・早退・欠席は認めない。また、他の受講者の学習の妨げとなる行為を繰り返す、授業・課題への十分な取り組みが見られない場合、単位は認定しない。

**【平成31(2019)年度個別演習選考基準】**

演習の成績や卒論のテーマなどを基に、面接を実施して判断する。他の演習修了者については、演習の成績と卒論のテーマを考慮したうえで、面接によって判断する。

**【平成31(2019)年度個別演習単位認定方法】**

毎回の個別演習参加状況、ゼミ運営への貢献、発表内容、卒業論文制作過程などを総合的に評価する。

**【平成31(2019)年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】**

本文（参考文献表を含めずに）20,000字以上（上限は設けない）。ただし、①オリジナリティがあること、②先行研究について批判的な議論が展開されていること、③課題や分析方法が明記され、かつ結論が明確であること、④ゼミで学習した理論、及び調査法が用いられていること、が必要である。また、参考文献表や引用方法についても評価の対象となる。



ナンバリングコード B4SCL-abdE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 334191) 個別演習 (園部) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abdE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 園部 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 国際移動、開発とジェンダーなど、国際社会学関連の修士論文を作成する。			
授業の目的 国際社会学の分野で基本的な専門知識を用いて、口頭で議論および論述ができる。 文献収集の基本的な作業を習得できる。 社会学調査の基本的知識を習得できる。 社会学的な考え方、議論の展開方法を身につけ、修士論文作成の準備をする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
国際社会学の分野でテーマを設定し、文献収集・講読と調査を行い、修士論文を執筆する。			
成績評価の方法と基準 平常点 (出席と議論への貢献度)、レポートなどにより総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画・学習の方法】  第1回～第10回：国際社会学の基本文献を精読する。修士論文のテーマを検討する。 第11回～第15回：文献精読を続けながら、社会学の調査方法についての基本知識を学ぶ。修士論文のテーマに必要な文献収集と購読を開始する。 第16回～第20回：修士論文のテーマに沿って、調査内容と方法について検討し、現地調査計画を作成する。 第21回～第30回：現地調査を行うが、定期的に調査の進展について報告し、課題があれば再検討する。修士論文の基本構成を作成する。			
教科書・参考書等 教科書については講義中に指示する。文献はできるだけ受講生の関心に合わせる。			
オフィスアワー 授業中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 欠席については、予め連絡すること。			

ナンバリングコード B4SCL-bacE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 334179) 個別演習 (高橋(明)) Special Seminar 台湾の社会と文化 Taiwanese Society and Culture	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア文化論、中国文化論	
	履修推奨科目	外国語演習 (中国語)	
学習時間 授業時間 90分X15回+予習時間+現地研修約1週間			
<b>授業の概要</b> 「台湾人」は原住民、漢民族、日本人、と統治者が交代してきたため、中国語圏でも中華人民共和国とは異なる独特の価値観を持っています。日本と近代以降特に密接な関係にあった台湾について、日本人の理解は十分とは言えません。2014年は、春に「太陽花運動」で議会が学生に占拠されたり、暮れの統一地方選挙で与党が大惨敗をして、さらに今年1月の総統選挙で政権交代が起こり国民党主席が辞任するなどする民主化以降社会の状況も目まぐるしく変化しています。更に、多種類の言語と文化・宗教が混在して、様々な顔を持っています。このゼミでは書籍、論文の輪読や現地見学を足場に、幾つかの視点から、台湾の現状を分析します。			
<b>授業の目的</b> 台湾に関する卒業論文制作の基礎として、資料の收拾法、批判的な読み方、実地での観察結果をレポートにまとめることなどの実際の手順を身に着ける。(DPの「知識・理解」に対応) 中国語・英文資料も利用して台湾の現状について理解する。(DPの「言語運用能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1資料を読みレジュメにまとめて発表することができる 2現地で資料を集めたり、現状観察の結果を文書化することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 演習での分担作業や発表(40%) 現地調査の準備や、現地での行動(20%) 現地見学・調査のまとめレポートと口頭発表(40%) なお、出席は当然なので減点基準にしかありません。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準 台湾や中華文化圏に興味があり、自然・風景・街を観察するのが好きな人向きです。他のメンバーとコミュニケーションが支障なくとれることも必要です。 台湾での見学・調査を含むので原則中国語を履修していることが望ましい。ただしコミュニケーション能力に自信があるものは未履修者でも差しかえありません。(4年次から受講する場合は、中国語既修者に限る) 通常11月頃に実施する台湾現地研修は、必須。パスポート、渡航資金を秋口までに準備することが必要です。また身体的・宗教的理由で極端に食べられないものが多い人は向いていません。なお中国語圏に限らず長期の留学を3, 4年次に計画している人は、予め選考時に申し出てください。 ・授業計画並びに授業及び学習の方法 第1学期 卒業論文のテーマの絞り込みと口頭で発表それについての討議を行う。7月6日奈良県である台湾学会を必ず聴講する。(4年次は希望者のみ、ただし4年次から受講するものは必須) 第2学期 現地見学調査の準備、各自テーマの設定、帰国後の報告作成、口頭発表。  授業準備として、自分の発表の回でない場合も、発表内容に関連する下読みをして、討議に備えてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書: 革命のつくり方 台湾ひまわり運動——対抗運動の創造性、インスプリクト 2373円 参考書: 日本と台湾 加瀬英明 祥伝社新書867円 など			
<b>オフィスアワー</b> 前期 金曜2時間目 研究室 後期 月曜5時間目 研究室			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・2019年度個別演習選考基準 演習受講者は基本的に受け入れます。他の個別演習と並行して受講を希望する者は、中国語を学習していることが必須です。選考は面接によります。 ・2019年度個別演習単位認定方法 秋の現地調査にいたる準備と、それを卒業研究に活かしているかで判断します。4年次現地調査も必須です。 ・2019年度卒業論文の作成要領と単位認定方針 台湾に関することで研究として成立しうるものであれば基本的にそのテーマを認めます。中国語履修者は中国語の、未履修者は英語の文献を少なくとも1本は利用することを求めます。日本語で20000字以上。なお中国語を母語とするものや特別履修プログラム参加者は中国語で提出することも認めます。(中国語の場合10000字以上) 秋の台北研修は必須です。			

ナンバリングコード B4GE0-cdeE-20-Ep4 授業科目名 (時間割コード: 334192) 個別演習(西成) Special Seminar まちづくり・デザイン研究	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	まちづくり論、地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 研究発表・作業等90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 衰退する地域には何が必要なのでしょうか、高齢過疎化は問題なのでしょうか。 これまで着実につくりあげられた人口拡大社会の仕組みを根本から見直し、環境・エネルギーや合意形成(政治)の問題に対応する新たな社会づくりが「まちづくり」に求められています。 本ゼミでは、「デザイン」という観点からこうした問題の解決を考えていきます。ここでいう「デザイン」とは、絵を描くような“デザイン”ではなく、「具体化する行為」そのものを「デザイン」と呼んでいます。社会の仕組みが大きく変化する今だからこそ、新たな発想で地域に価値を生み出していく必要があります。これまでの常識を見直す「デザイン」的思考が必要なのです。 人も思考も創造的に、ゼミ活動も創造的にいきましょう。			
<b>授業の目的</b> 学生自身が自分の問題意識・興味関心を明確化し、主体的な学びを得ることが目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①研究の思考方法・やり方を習得する 重要なことは、自分自身の問題意識を明確化し、認識することです。			
②プロジェクトの運営能力を身につける 実社会で求められていることは何か、地域の問題を解決するために、複数人でプロジェクトを行う運営能力を身につけます。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 「研究」と「プロジェクト」への取り組み姿勢と成果。ゼミでの発言と主体性。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ≪授業計画並びに授業及び学習の方法≫ 本ゼミでは、①個人研究と②プロジェクトが二本柱です。			
<b>①個人研究 (主に4年生)</b> 「まちづくり×○○」 この○○に各自の興味・関心を入れてください。  「研究」はすでに世の中で明らかになっていることを「学ぶ」のではなく、これまで明らかとされていなかった知見や事柄を「追及」していく、極めて創造的な思考方法です。各自の問題意識に従い、自分の知的関心を拡げていってください。  昨年までの卒業論文タイトルをいくつか紹介します。			
<b>卒業論文</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内国際芸術祭をきっかけとした地方移住者の価値観と働き方の実態</li> <li>・理想地区づくりによるコミュニティの主体意識形成に関する実践的研究</li> <li>・近年強まる地方回帰の現状とその変遷に関する考察</li> <li>・石清尾八幡宮の伝統的祭礼に関する研究</li> <li>・銭湯にみる高松の都市生活とその変遷に関する研究</li> <li>・公共空間における芸術・音楽を通じた文化政策に関する研究</li> <li>・栗林公園作庭史にみる香川茶の発祥とその後の伝播</li> <li>・まちづくりにおけるゆるキャラのデザイン特性</li> <li>・森林を活用した医療・福祉行為に関する事例研究 など</li> </ul>			
<b>②プロジェクト (主に3年生)</b> ゼミでは学生自身が主体的に取り組めるプロジェクトを運営しています。 毎年、プロジェクト内容やテーマは少しずつ変わりますが、現段階では以下の内容を考えています。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋島山上ちようちんカフェ</li> </ul> ゼミメンバー全員で取り組むプロジェクトです。詳しくは以下のWebを参照のこと。 屋島山上ちようちんカフェ公式Webサイト <a href="http://chouchincafe.wixsite.com/home">http://chouchincafe.wixsite.com/home</a>			

・コミュニティデザイン

「コミュニティの主体づくり」(Community Empowerment)をテーマとして、県内各所のまちづくりプロジェクトに携わっています。代表的なプロジェクトは五郷地区 (<http://gogou.jp/>)です。その他のプロジェクトは研究室のWebを見てください。

・その他プロジェクト

空き家の民泊運営や有機農園との連携、フットパスによる里づくりなど、その他のプロジェクトについても検討中。

教科書・参考書等

適宜紹介します。

オフィスアワー 研究室にて随時対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

演習で学んだ「研究のやり方」をもとに、正しくも面白い「研究」に取り組むことを期待しています。「研究」と「プロジェクト」において、3年生を指導してください。

ナンバリングコード B4GE0-cebE-20-Ef4 授業科目名 (時間割コード: 334180) 個別演習 (原) Special Seminar 地域活性化アクションリサーチ	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4GE0	DP・提供部局 cebE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 4	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	エコソリズム論	
	履修推奨科目	エコソリズム論	
学習時間 授業90分×25回程度＋フィールドワーク＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 教室での学修とフィールドでの実践により、地域活性化につながる地域振興策を企画・実践する。(このような手法をアクションリサーチという) 県庁・市役所・町役場、企業、農協・漁協、NPO、住民とともに活動する。 社会が大学教育に強く求めているチャレンジ精神、課題探求・解決力が身につくが、そのためには行動力、思考力、コミュニケーション力が要求される。			
<b>授業の目的</b> 地域活性化につながる地域振興策を企画・実践することにより、授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. チャレンジ精神が身につく。 2. 課題探求・解決力が身につく。 3. コミュニケーション力が身につく。 4. 能動的な学習をもたらす主体的な学習ができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・個別演習 授業およびフィールドワークへの参加態度(積極性など)・参加内容(取組内容)、各種報告会での発表内容、卒論等により総合的に判断する。 ・卒業論文の作成要領と単位認定方針 演習での課題を卒論にする。20,000字程度が目安だが、量より質を重視する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> ・選考基準 演習でのレポートおよび取組姿勢によって選考する。  ・授業計画並びに授業及び学習の方法 1年間かけて、教室での学修とフィールドでの実践との融合をはかる。			
第1回 研究史の整理と課題設定① 第2回 研究史の整理と課題設定② 第3回 研究史の整理と課題設定③ 第4回 研究史の整理と課題設定④ 第5回 研究史の整理と課題設定⑤ 第6回 第1次フィールド調査報告① 第7回 第1次フィールド調査報告② 第8回 第1次フィールド調査報告③ 第9回 第1次フィールド調査報告④ 第10回 第1次フィールド調査報告⑤ 第11回 第2次フィールド調査報告① 第12回 第2次フィールド調査報告② 第13回 第2次フィールド調査報告③ 第14回 第2次フィールド調査報告④ 第15回 第2次フィールド調査報告⑤ 第16回 中間報告① 第17回 中間報告② 第18回 中間報告③ 第19回 中間報告④ 第20回 中間報告⑤ 第21回 第3次フィールド調査報告① 第22回 第3次フィールド調査報告②			

第23回 第3次フィールド調査報告③  
第24回 第3次フィールド調査報告④  
第25回 第3次フィールド調査報告⑤  
第26回 最終報告①  
第27回 最終報告②  
第28回 最終報告③  
第29回 最終報告④  
第30回 最終報告⑤

<自学自習>

フィールドに関する資料収集・分析を行い、当該フィールドについての理解を深める。

教科書・参考書等  
授業時に指定する。

オフィスアワー 木曜3限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

卒論作成に向けて「書く」技術にこだわる。受講生は書くことに慣れる必要がある。

ナンバリングコード B4SCL-abcE-20-Eg4 授業科目名 (時間割コード: 334190) 個別演習 (宮島) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 4	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×30回＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 前年度3年次「演習」においては、1年間のゼミ学習の集大成として、全てのゼミ生が、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書き、提出して終了した。今年度の個別演習では、前期は、提出されたレポートについて見直しつつ、各自の卒論テーマを改めて設定し、卒論に取り組む。後期は、卒論に向けての発表・報告、それについての議論・意見交換を繰り返し、卒論を完成させていけるよう指導する。			
<b>授業の目的</b> ・広くアジアへの関心をゼミ共通の大きなテーマとして知識と関心を育む。 ・地域研究、論理的思考、社会的事象を把握するための社会調査法について理解をする。 ・上記の集大成として各自の設定したテーマの卒論に取り組み、完成させる。 ・報告・発表（プレゼンテーション）、他人の報告を受けて自身の意見を提出するディスカッションの能力を向上させる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・広くアジアへの関心をゼミ共通の大きなテーマとして知識と関心を育む。 ・地域研究、論理的思考、社会的事象を把握するための社会調査法について理解をする。 ・上記の集大成として各自の設定したテーマの卒論に取り組み、完成させる。 ・報告・発表（プレゼンテーション）、他人の報告を受けて自身の意見を提出するディスカッションの能力を向上させる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 個別演習：(1) 自身の卒論に関する報告・発表。(2) 他のゼミ生の報告・発表時におけるディスカッションを中心に授業での積極的な参加態度。(3) 卒業論文への取り組み、を総合して勘案する。 卒業論文：(1) 学術論文執筆のマナーやルール（参考文献の提示、引用方法など）を守っているか、(2) 問題意識をもってテーマを決定し、研究目的と結果を明示した論文になっているか、(3) 適切な資料や先行文献にあたって調べているか、また可能な限りの資料や先行文献にあたる努力をしたか、必要に応じて適切な質的・量的調査を行ったか、(4) 構成（順序）づけて論じているか。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
・選考基準 前年度3年次「演習（宮島）」において、1年間のゼミ学習の集大成として、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書いて提出し、合格した者。 上記以外の学生については、それと同等の学力があること。			
・授業計画並びに授業及び学習の方法 前年度3年次「演習」においては、1年間のゼミ学習の集大成として、各人の関心に沿ったテーマでレポートを書き、提出した。今年度の個別演習では、前期は、提出されたレポートを踏まえて、各自の卒論テーマに取り組む。輪番で報告担当者を決め、卒論テーマについての報告を行う。  後期は、卒論に向けての発表・報告、それについての議論・意見交換を繰り返し、卒論を完成させていけるよう指導する。特に、引用の形式など、論文執筆マナーについては全員に対して徹底するように指導を行う。			
<b>教科書・参考書等</b> それぞれの卒論テーマや採用する方法論に応じて適宜案内する。			
<b>オフィスアワー</b> 授業時間後に受け付けるほか、宮島研究室（南4号館2階）でも対応するが、会議等で不在になる場合があるので事前に約束をすることが望ましい。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ゼミ生が相互に学びあい、ともに向上していくことを目指すため、前年度演習に引き続き、自分の報告担当でない時にも積極的な姿勢を要求する。			

ナンバリングコード B4SCL-bcxE-20-Ex4 授業科目名 (時間割コード: 334194) 個別演習(山本) Special Seminar	科目区分 専門教育科目	時間割 前期木4	対象年次及び学科 4～経済学部
	水準・分野 B4SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 4	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	日本社会経済史、経済史入門、経営史	
	履修推奨科目	日本社会経済史、経済史入門、経営史、現代韓国・朝鮮研究、アジア経済論、アジア社会論	
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本演習では、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行い、卒業論文を完成させます。 演習参加者は個別の研究テーマについて研究を進めていきますが、同時に、他の演習参加者の研究テーマについても我がことのように捉え、議論することを求めます。また、学内の他の演習受講者、本学にとどまらない他大学の日本経済史演習受講者とも研究交流を行い、議論を積み重ねて、受講者各自の学術面にとどまらない成長を期することとします。 また、今年度は、経済学部が県下の高校と実施している「高大連携・共同の学び講座」に全面的に参加します。演習受講者は、「地域社会経済の近現代史的考察」とする論題について、高校生を相手に、演習受講者自らが調べた内容について、高校生の前で発表し、高校生と共に、歴史的観点から地域社会経済の諸問題を議論していくことを求めていきます。			
<b>授業の目的</b> 「授業の概要」欄で述べた如く、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行う事を目的とします。 上記目的を達成する上で、受講者には、19世紀後半～20世紀中葉までの時代を中心に、日本に軸足を置いて、社会経済の歴史を広義に捉えた上で研究を行うことを要求します。 何故ならば、日本経済の歴史の変容を問うのであれば、国民経済・経済政策等のマクロ的領域にとどまらず、産業・企業といったミクロ的領域、近現代日本経済が選択した「積極的」な対外経済進出(＝アジアの中の日本経済・日本企業)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があるからです。また、日本社会の変容を問うのであれば、社会を構成する諸要素(外交や軍事を含む広義の政治、文化、教育、「生ある全てのもの」)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があります。このような広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択して下さい。 本演習を受講することで、広い視野から日本経済・社会の歴史の変容を考察する能力が身に付き、広い問題関心を有した上で個別の研究テーマを選択することが可能となり、他の演習参加者の研究テーマについても自らのことのように捉え、議論出来るようになるでしょう(学士課程のDP「思考・判断・「知識・理解」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 日本経済・社会の歴史の変容について、広い視野から考察できるようになる。 2) 広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択できるようになる。 3) 他の演習参加者の研究テーマについても自らのことのように捉え、議論できるようになる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> <b>【2019年度個別演習単位認定方法】</b> 毎回の個別演習参加状況と取り組み、前期・夏季合宿・後期における報告内容等を踏まえて、総合的観点から評価します。 <b>【2019年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】</b> 執筆する卒業論文については、文字数の上限・下限は設定しません。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆して下さい。「個別演習」においては、最低3回の卒業論文に関する報告(前期・夏合宿・後期)を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を作成していきます。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【選考基準】</b> 前年に「演習」を受講せず、新たに「個別演習」を受講する場合は、卒業論文の研究計画書の提出を求めます(A4用紙2枚程度)。「研究題目」、「研究テーマ選択理由」、「選択した研究テーマに関する先行研究リスト」、「先行研究リストに記した文献(1点以上)に関する簡単な内容紹介と、同文献で解明された研究内容」を記して下さい。可能であれば、「研究を行う上で用いると思われる資料(『三菱商事社史』等の社史、『香川県史』等の自治体史、統計資料等)」も記して下さい。場合によっては研究計画書で記した研究領域に関する知識等について、口頭試問を行います。その際には、成績表のコピー提出を求めます(成績表を閲覧することで、志望者各自の3年生までの講義への取り組み等を質問します。なお、悪い成績だからといって、それだけで演習履修・受講を認めないということはありません)。また、上記計画書の内容に関する質疑応答も行います。			



### 【夏季合宿等】

2019年度は、夏季合宿（2泊3日。9月開催予定）と、慶應義塾大学文学部前田廉孝研究会（ゼミナール）との研究交流会（於 箱根。2泊3日。9月開催予定）、立命館大学経済学部細谷亨ゼミナールとの、冬季研究交流会（香川大学にて11～12月のいずれかの週末に開催予定）を行います。原則として、合宿・研究交流会には必ず参加することを要求します（諸事情で参加が不可能な場合は、事前に相談すること）。9月の夏季合宿では、卒業論文の中間報告をしてもらいます。夏合宿の開催地は4月以降に演習受講者・個別演習受講者の意見を徴した上で決定しますが、一定程度の交通費と滞在費を準備して下さい。また、神奈川県箱根で開催される前田廉孝研究会との研究交流会についても、交通費と滞在費を必ず準備して下さい。

### 【高大連携・共同の学び講座】

香川県下の高校生を相手に、「地域社会経済の近現代史的考察」という論題の下、演習・個別演習受講者には高校生を対象とした自分たちの調べた内容について（どのような内容にするかは、演習・個別演習受講者が主体的に選択します。【講義計画】に記した輪読文献、『香川県の百年』『日本経済史—近世から現代まで』の読解を通じて調べる内容を決めてください）高校生の前で発表し、高校生と共に、歴史的観点から地域社会経済の諸問題を議論していきます。

### 【講義計画】

本演習を受講する上で、後の時限の「演習」も受講することを要求します。「演習」・「個別演習」担当者として、両演習を2つの学年の受講者が連続して受講し質疑応答を繰り返すことに高い教育効果が認められると確信するが故に、連続受講を要求します。進級・卒業等の観点から「演習」に参加できない場合は個別に相談しますが、基本的には「個別演習」・「演習」の連続受講しか認めません。

以下のスケジュールで演習を行う予定ですが、受講者の理解や研究の進展等により、変更する可能性があります。

第1回：ガイダンス

第2～第7回：武田晴人編『新版 日本経済の事件簿』輪読と質疑応答

第8～第14回：卒業論文第1回報告に関する質疑応答

第15回：前期のまとめ（各自が夏休みに従事する研究領域の確認。夏合宿で卒業論文第2回報告を実施）

第16～第21回：『香川県の百年』『日本経済史—近世から現代まで』の輪読と質疑応答

第22～第24回：立命館大学との冬季研究交流会に向けた準備作業の報告

第25～第30回：卒業論文第3回報告と報告内容に関する質疑応答

テキストの輪読については、リポーター以外も精読して、論点を事前に考えておいて下さい。

卒業論文報告においては、リポーターが卒業論文を執筆する上での根幹文献を他の受講者にも事前に配布し、根幹文献のレポートと併せて各自の卒業論文の構想を報告します。聴講者は事前に指定された各文献を精読し、論点を考えた上で参加します。

### 教科書・参考書等

【教科書】武田晴人『新版 日本経済の事件簿』（日本経済評論社、2009年、3,000円＋TAX）、伊丹正博・細川滋・徳山久夫『香川県の百年』（山川出版社、2003年、2,300円＋TAX）、沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3700円＋TAX）。

【参考書】三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010年、2800円＋TAX）。

ただし、教科書は教員がまとめて購入し頒布（販売）することとしますので事前に用意しなくて大丈夫です（『新版 日本経済の事件簿』は定価の2割引き＋TAXで、『日本経済史—近世から現代まで』は定価の1割引き＋TAXで頒布できます）。参考書は、必要に応じて購入をお願いする可能性があります。購入しないで済む可能性もあります。

オフィスアワー 木曜日6・7時限。また、メールにて事前連絡してもらえれば、随時対応します。

### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

執筆する卒業論文については、文字数の上限・下限は設定しません。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆して下さい。「個別演習」においても最低3回の卒業論文に関する報告（前期・夏合宿・後期）を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を完成させます。